

戦争と？

施設長 永井 俊彦



戦争というものはいろんなものを生み出す。兵器はもちろん、文学、音楽などはよく知られているが、ファッション界にも一役買っている。

イギリスオランダ連合軍・プロイセン軍とフランス（ナポレオン）が戦ったワーテルローの戦い（1815年）で勝利したイギリスのウエリントン公の副官にラグランという人がいた。彼はこの戦いで右手を失った。そこで彼は負傷兵がコートの着脱が楽になるよう肩パットがなく、袖が襟ぐりまで切れ間なく続き、鎖骨から腋窩にかけて縫い目のみられるラグラン袖というものを創作した。その後彼は男爵となり、クリミア戦争（1854-1856年）が勃発すると陸軍元帥として英軍の指揮にあたったが現地でコレラに罹患し、戦病死している。

このクリミア戦争の時、ラグラン男爵の部下にカーディガン伯爵（軽騎兵旅団長）がいた。彼は戦病者が保温のため着ていたVネックのセーターを切断し前開きとし、ボタンを付け着脱が楽になるようにしたのが今でいうカーディガンのセーターである。カーディガンには襟付きのもの、半袖のものもあるが袖のないものはベストといい区別されている。

また興味あることに第一次世界大戦の時、イギリスの防水型軍用コートであるトレンチコートを制作したアクアスキュータム（Aquascutum 1851年）、バーバリー（Burberry 1856年）の2社がこのクリミア戦争の前後に創立されているのも面白い。

しかし、このクリミア戦争で一番有名な人は「クリミアの天使」と呼ばれたフローレンス・ナイチンゲールでしょう。

最後に、ファッションとは関係ないがベトナム戦争では、前線への物資の補給はほとんどパラシュートで投下されていた。そのため点滴のガラス瓶は半分以上割れたそう。そこで考案されたのが現在使われているプラボトルである。